

第 61 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬	(株)	ミカルデイス	中外製薬	(株)	ボンビバ
第一三共	(株)	ネキシウム	大日本住友製薬	(株)	アイミクス
エーザイ	(株)	アリセプト	(株) ジェイ・エム・エス		
興和	(株)	リバロ	大塚製薬	(株)	エルカルチン
大塚製薬工場	(株)	ラコール	シーメンス・ジャパン	(株)	MAGNETOM Skyra
大鵬薬品工業	(株)	アロキシ	武田薬品工業	(株)	アジルバ
田辺三菱製薬	(株)	レミケード	(株) ツムラ		大建中湯
(株) ヤクルト本社		カンプト			

(ABC 順)

編集委員会

編集長：並 木 温

編集委員：金子弘真 佐地勉 杉山篤

周郷延雄 高橋寛 高橋啓

津熊久幸 瓜田純久 (ABC 順)

編集後記

2月21-22日、緒方洪庵が私塾として設立した「適塾」の自由な学問的気風が残る大阪大学中之島センターにおいて、第8回日本病院総合診療医学会学術総会が開催されました。総合診療の“本場所”ともいえる学会であり、全国から300名以上の参加があり、東邦大学総合診療科からも多くの演題を発表しました。この学会は本学を昭和50年に卒業し、九州大学病院総合診療科教授となられた林純先生が理事長を務められ、本学に関わりの深い学会です。学会の理事が「総合診療医として忘れられないこの一例」という講演を依頼され、総合診療科教授達が症例報告を行いました。「20年ぶりだよ」と言いながら、楽しそうに発表する先生が多く、会場はとてもよい雰囲気になりました。「元〇〇専門医、今、総合診療医」という教授が多く、それぞれ、若い頃のサブスペシャリティ領域からの報告が多かったのですが、私は神経内科疾患の報告をさせていただきました。結局診断できなかったものの、症候から病態を推定し、簡単な数理モデルを呈示して、治療法を選択するまでの思考回路を詳細に述べました。医学教育では鑑別診断を挙げて、診断プロセスを考える方法が一般に行われていますが、臨床現場では確定診断に至らなくても治療の糸口をみつければなりません。ニューロンをスモールワールドネットワークと考え、数理モデルから細胞相互作用を断ち切る方法を模索し、治療法を考察していきました。本号のNakano論文も同様に、鑑別診断よりも慢性咳嗽の治療法を模索するなかで、臨床に有用なツールが示されています。それにしても、咳嗽の定義とは何でしょう？ガイドライン、アルゴリズムの通りに診療して治らないと

きは、どうすればいいのでしょうか？世界標準の治療をしたのだから、自分に責任はないと、開き直るのでしょうか？なぜ、自信満々の医師に患者トラブルが多いのでしょうか？診断、治療以前の、何か大事で忘れがちなものをNakano論文から汲み取っていただければ幸いです。

(瓜田純久)

東邦医学会雑誌 第61巻 第2号

平成26年3月1日発行

編集兼
発行人 並木温〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号
東邦大学医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10

株式会社 杏林舎